

北川久子さんからの緊急アドバイス

皆様、試験対策は如何でしょうか。2015 年度合格者の北川です。

この度、ハローの第二次口述試験対策に関わらせていただいた身ですので、皆様に絶対に合格していただきたいと考えております。

＜パターン対処法＞リリース後の状況を鑑み、本番で失敗しないための、準備段階での注意点を何点かお伝えしたく、本書を書かせていただきました。

また、11/13 の合格体験談の際、皆様から「丸暗記」という言葉が頻出していたため世界中に日本の魅力を伝える仕事の面接試験の直前対策(普段の勉強は別ですよ)で、「鬼の形相で丸暗記」はおかしいよなあという思い、＜パターン対処法＞をお伝えする際も、サンプル英文は作らないようにしていました。(暗記したが本番使いこなせない、ということ为了避免のため。)

ただ色々な状況を考慮に入れ、この度、簡単なサンプルを用意いたしました。

昨年用意していたものを元に作成したものです。

3つのトピックをパターン1:近代化系にあてはめておりますので、参考になさってください。

＜パターン1＞のサンプル(基本・応用・発展)

<http://hello.ac/sample.pdf>

この通りやらなければならないというわけではないのでご注意ください。

1年前の今日、試験5日前(火曜日)で模擬面接の日でした。

火山、自然→箱根など、何かのトピックのグループに対し同じことを言う、というパターンの概念はあり練習はしていたものの、模擬試験では全く使えず Facts をダラダラ並べ2分超え。壊滅的状态でした。

その後、死ぬほどプレゼンの練習をしました。(試験3日前からは1日15時間以上)

試験前日には幻覚を2回見ました。面接でパターンが発動したのは本番で、結びつけの効果か、外国人試験官も特に違和感なく聞いていたように思います。

(日本人試験官は始終コワかった。)

まだ時間はあります。あきらめないで、本番まで対策していきましょう！！

では、下記3点ほど、注意点を申し上げたいので、少し長くなりますが皆様の戦術のご参考にしていただければ幸いです。

しつこい箇所もありますがどうぞご勘弁を・・・

1. まず最初に:今起きている問題点 伝家の宝刀の正体
2. 今一度確認: ~パターン対処法とは~
3. こんな状況に陥っていませんか?:危険かもしれない状況(①~③)
 - ①とりあえずオリンピックに突入すれば万事 OK
 - ②ひたすら 300 選をうつして定番のスク립ト作成中
 - ③開発者だから 2 週間でパターン化ものにできたんでしょ? という諦めモード。

【1】まず最初に:今起きている問題点 伝家の宝刀の正体

一生懸命、300 選やその他教材から抜粋した Facts を沢山並べて、いきなりオリンピックやおもてなしの締めに繋げている方が現在、一定数いらっしゃるようです。

セミナー資料の中で、自分の<パターン対処法>の③締めの定型文例が、オリンピックやおもてなしに関する文章であったこと、また、トピックの結びつけ先であるパターン自体が「おもてなし」である「パターン 9」をたて続けに紹介してしまったため、「(能)」の結びつけ先のパターンとしても使いました)一部で、Facts を言った後、(連想→パターンへの結びつけをすつとばしてしまった状態で、)定型文の「おもてなし」と「オリンピック」になんとかしてこじつけてしまう方法、と捉えているのでは、と考えられるプレゼンがこのところ見受けられると伺いました。

つまり、<300 選完全武装>に近い形のプレゼンの最後に不自然に「おもてなし」と「オリンピック」がくっ付いているイメージです。

(※<パターン対処法>のつもりで<300 選完全武装型>を行うことの危険性は3-①で後述いたします。)

まず、伝家の宝刀は、「困ったら、おもてなしとオリンピックについて最後に言うこと」でなく、「連想による、パターンを駆使した縦横無尽のプレゼン作成方法」であることをご理解いただきたく思います。(なんか大層な名前になってしまいましたが・・・)

そもそもパターンを作成していない、連想や、結び付けの練習をしていない場合は、<パターン対処法>では戦えませんから、実戦で宝刀はほぼ使えないものと考えてください。従来どおりのプレゼンで挑まれたほうがかえって無理やり感がなく、安全な場合もあります。(<パターン対処法>は準備していないトピックが出た時の救済策でもありますが、自滅してしまつては、本末転倒なので。)

3-①で詳しく触れますが、Facts+こじつけのオリンピックこのようなプレゼンを作成した場合、そこには「パターン対処法」で必要なプロセスでもある、結びつけ⇒自作パターンへの流れがない、

ということです。

トピックのパターンへの結びつけを行うのに必要な「連想」プロセスがありません。

つまりトピックとパターンが関連付くという流れがなく(そもそも本体であるパターンがない)その状態で唐突な締めに入っている、という状態です。

※「結びつけ」にはトピックと、訪日旅行をテーマとして作っているパターンをつなぐ以外に、そのテーマ性をプレゼン全体を通して保持し、聞き手の違和感を軽減する役割もあります。(完全に違和感を払拭することはできませんが、)

セミナー中も申しました通り、きちんとプレゼンができれば<300 選完全武装><パターン対処法>どちらの方法でも合格できます。

Facts に無理に付け足した「おもてなし」と「オリンピック」が諸刃の剣となる可能性だけは避けていただきたく、今一度<パターン対処法>について確認と、以下、こんな状況に陥ってないか? チェックいただき、本番で失敗しないようにしていただくとよろしいかと存じます。

【2】今一度確認 ～パターン対処法とは～

パターン対処法は Facts が少なくとも(定義があまり説明できなくても)トピックが、あらかじめ作成した複数のパターンからどのパターンにあてはまるかを判断、トピックとパターンを結び付けることによって、テーマに沿ったプレゼンを作成する方法です。

<パターン対処法は三段構成>

①トピックの Facts←少なくとも良い。

②あらかじめ用意した「パターン」への「結びつけ」を行い、パターン展開←ボリュームを持たせるのはここ。いわばあらかじめ用意した本体。

③締め(=定型文)

※③の締めはあくまで結びですから、①、②に対してはある程度独立した内容です。

ただ、②でテーマに沿ったパターン(〇〇系パターン)にトピックを結び付けていますので、自分の場合は、テーマに沿うという形で③でオリンピックやおもてなし、自分の夢に関連したことを言っても良いだろうと思い、そうした内容で定型文を作成しました。セミナー資料に書いた通りもちろん、「自分がキメやすい締めでもOK」です。

※「オリンピック」「おもてなし」は多くの受験生が使用することが見込まれますので、オリジナルを作っておくか、なくても纏まりそうなら蛇足として除いてしまうのも手です。

※注意※結びの定型文がパターンではありません。

セミナー中約 10 個のパターンをご紹介した通り、パターンは自分で文例を作ります。

近代化系パターン→下田温泉なら、簡単な下田 温泉の観光案内などです。

重要なのは「“パターン”を作成する」ことと、トピックから「“連想”」を行い、トピックをパターンに「結びつける」ことです。

連想によるパターンへの結びつけがないと、トピックがパターンに関連していない

ため、いきなりおもてなしやオリンピックに突入しても違和感満載のプレゼンになります。

パターンは訪日旅行をテーマとして作成しているはずですから、そこに結びつけを行うことでテーマ性を維持、プレゼン全体の統一感を作り出し、違和感を少なくします。

【3】危険かもしれない状況①:とりあえずオリンピックに突入すれば万事 OK

→パターン対処法は、無理やり「トピック」を締め「オリンピック or おもてなし」を繋げる方法だと思っている。そのため、Facts の後、オリンピックへいきなり話が飛び、非常に不自然なプレゼンになる。

しつこいですが、上記の場合は、「パターン対処法」の特徴でもある、結びつけを行うのに必要な「連想」プロセスがありません。結び付けもないので、トピックと本体が関連付いていません(そもそも本体であるパターンがない)ので、統一感がない状態で「オリンピック」に突入していることとなります。場合によっては非常に不自然なプレゼンに聞こえます“

(※注:②でおもてなし自体がパターンの、パターン9「おもてなし」へ結びつけを行う場合は問題ない。結びつけによってトピックがテーマに沿うから。)

このような方法で練習されている方は、パターン対処法というよりは、“Facts + 付けたし(定型文)”に近いです。

形は、セミナーで紹介した<300 選完全武装>に近い。

付けたし部分を、事前に用意しているか、そうでないかの違いです。

事前に用意した無理やりなオリンピック定型文が場合によっては武器ではなく凶器になる可能性があります。

もちろん、Facts + 付けたしでプレゼンできるのであればそれが本来であるし、1:30 くらいで纏まりのあるプレゼンができれば十分合格できると思います。

注意すべきなのは、<パターン対処法>のつもりで<300 選完全武装>に近いプレゼンを行おうとすると、謎のオリンピックへの突入を行うことになり、プレゼンがちぐはぐな、中途半端なものになるということです。

<300 選完全武装>に近い形で挑むなら、Facts と付けたしの全体のバランス感覚を大切に、テーマに沿ったプレゼンを行うべきです。

最後にオリンピックに繋げるのではなく、その場での的確な付けたしを考え、プレゼンを組み立てる。スーパー高校生と同じプレゼンスタイルで行くべきです。

＜パターン対処法＞は結びつけ以降、ほとんどあらかじめ決めたことを話すのに対し、＜300 選完全武装＞はその場でプレゼン全体を作り上げるという点で異なります。

それぞれ別の剣客の剣術です。

ひとりで融合しようとして中途半端にはならないようご注意ください。

セミナー中も申し上げましたが、どちらでも、合格できます。やれるほうで大丈夫です。

ただ、「渋谷スクランブル交差点」「ゆるキャラ」等、準備していないトピックが出題された場合、＜300 選完全武装型＞では、もしかするとその場でのプレゼン作成が難しいかもしれないから、この度、＜パターン対処法＞も参考にさせていただいたという認識です。

突拍子のないトピックの場合、連想を使う＜パターン対処法＞のほうがスムーズに行く場合もあります。

逆に、準備していないトピックが出て、自在にプレゼンを作り出せるのならパターンを用意できていないのに、無理に＜パターン対処法らしきこと＞をする必要はありません。

くどいですが、合格できれば良いのですから、合格点に達するレベルの質・量が伴えばどんなプレゼンでも OK です。私にとって、自在にプレゼンを作り出す方法が＜パターン対処法＞でした。

不安な方は、パターンの準備と連想、結びつけは必要となってきますが、すこしでも本来のパターン対処法を取り入れてみる、残された時間で、モノを見ては結びつけ、プレゼン作成する練習をされると良いと思います。

※参考※

＜300 選完全武装型＞

・長所

その場でプレゼンを構築できる。パターンを用意する必要がない

・短所

使い手が暗記はもちろん、周辺知識や運用方法に長けている必要がある。

人によっては相当な鍛錬が必要な場合も。

プレゼンが苦手な方は、トピックにより運頼みな場合も。

＜パターン対処法＞

・長所

準備していないトピックに対応できる可能性が高まる。

慣れれば意外と短時間でプレゼン構築を身につけることが可能。

・短所

リスクヘッジするには、ほとんどのトピックをカバーするだけのパターンを準備する必要がある。

結びつけを行ったからといって完全に違和感がなくなるわけではない。

今年「オリンピック」と「おもてなし」を言いすぎると、主催者側から疑惑の目が向けられる。2016～開発者が危険人物としてマークされる(かもしれない)

【4】危険かもしれない状況②:②ひたすら 300 選をうつして定番のスク립ト作成中

⇒<300 選>やその他教材からひっばってきた Facts をひたすら PC でコピー&ペーストして、定番テーマに対してひとつひとつプレゼン作成。大量のスク립トを作っている。当日言えるかもわからない Facts で頭でっかちになってしまう。そもそもパターン化って……? 「いざとなったらおもてなし?」に陥る。

こちらも、<パターン対処法>の準備というよりは、<300 選完全武装>に近いです。もちろんこの学習方法でも本番力を発揮できれば合格できます。

今、コピー&ペーストしているフレーズ達、自分の血となり肉になっているか? 本番、自在に操れるか?

「街コン」「スクランブル交差点」「ゆるきゃら」など出てきてもすぐにプレゼンできるか?

確認してみてください。

ちなみに、トピックの数=パターンの数ではありません。

<パターン対処法>ではトピックをグルーピングしますから、パターンは少ないはず。おなじパターンなら、トピックの Facts と、結び付けのみ変えて対応していきます。

セミナーでは、トピックをまずグルーピングし、あてはまりそうなパターンを作成、作ったパターンに分類していってください、と申し上げました。

またパターン化を行えば、最初は PC で作成していてもだんだんと頭のなかで作れるようになり、メモは箇条書き程度でできるようになります。(私は「城」「主格合一」「体をはる系」などはスク립トを用意していません)

同じパターンにあてはまれば、Facts→結びつけまでを変えるだけなので、トピックごとに上から下までスク립トを作成する必要がなく、スク립トは少なくなります。Facts→結びつけを頭の中でもやってしまうということ。

緊急事態に備えて何かパターンを用意しておくべきか?

それとも自分には必要ないのか?

今一度確認してみてください。

【5】危険かもしれない状況③:

「開発者だから2週間でも＜パターン対処法＞ができたんじゃないの。」という諦めモード。

⇒冒頭述べさせていただいた通り、試験 5 日前の模擬面接はボロボロでした。

Facts をならべ 2 分超え。パターンどころではありません。

セミナーの最後にも申し上げましたが、正攻法であろうがパターンを使おうが何だろうが、ご自身が後悔しないように、限界まで追い込んで、試験に挑んでいただきたいと思っています。

私は仕事や他の資格との両立が非常に辛かったのもありますが、15 歳から憧れていたこの資格が取れるなら、多少寿命が縮んでも良いと思っていました。

試験 3 日前くらいから休みをとって、1 日 15 時間は何かを見ては連想→パターンにあてはめ→プレゼン構築、＜300 選＞シャドーイング・・・極限までプレゼンの練習をしました。大袈裟ですが命をかけて挑んだと言えらると思います。

私は絶対に黙らない、この日だけで良いから、この日の 10 分だけでも良いから神様、ガイドの資質を私に与えて！！お願いしますどうか合格させてくださいと必死でした(汗)

ものすごくお慈悲モードだったと思います。

前述しましたが試験前日には幻覚を 2 回(大きな虫と、変な光)見ました。

面接でパターンが発動したのも本番で、Facts でつまったものの、結びつけによって意外とプレゼン全体がスムーズに流れ、面接官の質問内容も「パターン 2: 買い物」領域に誘導できたように思います。

今は、別の国の国家資格の勉強をしているので、国家資格の考え方や、試験制度が国により全く異なるのがよくわかります。

日本の原則年 1 回というのは、相当な忍耐と計画性を要する制度だと思います。

だからこそ、この直前期、一番がんばる時、絶対後悔しない方法で戦っていただきたいと思っています。その中で私の＜パターン対処法＞という抜刀術が、もし戦術の一つであれば幸いです。

皆様の合格を心より祈念いたしております。

P.S セミナーや資料中で抜刀術など剣術の話を散々申し上げましたが、面接官はお客様ですので斬らないようにお願いします。トピックを結び付け(抜刀)で斬る！(笑)

以上